

ドナテッロ「聖ジョルジョ像」(1400年ごろ)



# 聖ゲオルギウスの ビジュアルイメージと 演劇衣装

奈良女子大学附属中等教育学校  
5年

# ○研究動機

舞台衣装(特にオペラやバレエ)に興味があった。

オペラやバレエが勃興期だった近世の市井の人々の服装と舞台衣装の関係について調べたい。

舞台衣装についての文献にあたる。

# ○絵画と舞台衣装



アレツソ・バルドヴィネッティ  
《受胎告知》第5場面1447年  
ウフィッツィ美術館／フィレンツェ

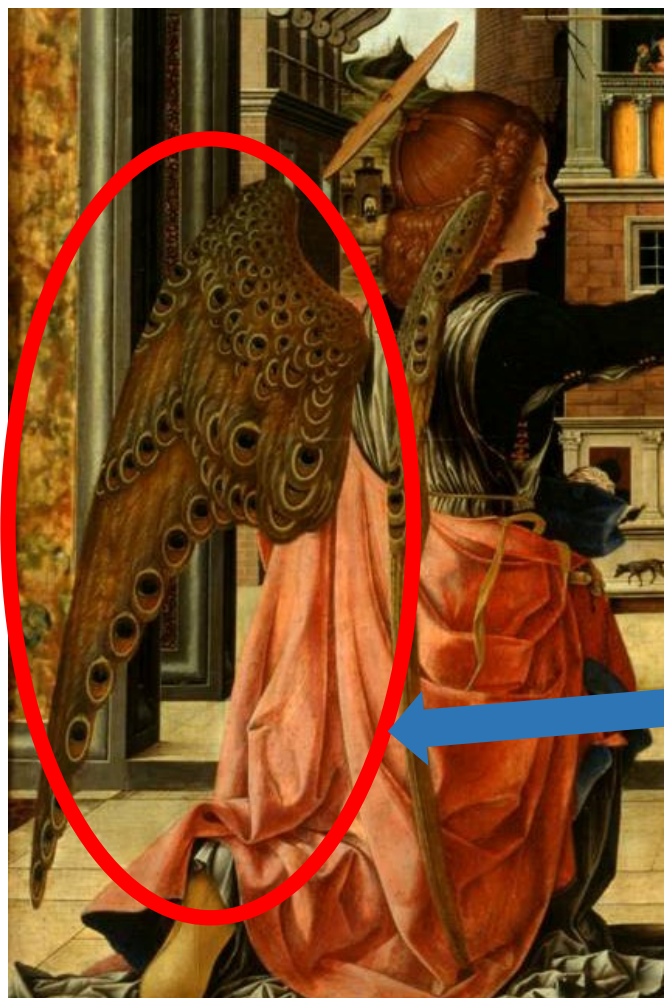
頭の上に光り輝く円盤がのっています。この円盤の下の面に頭の反射が映っているのがわかりますか？これが次のテーマなんですけれども。

「贅を凝らした衣装」ということで、頭部に被る光輪、これが当時の聖史劇の創作団体である兄弟会の財産目録に「聖史劇用の光輪」ということではっきり記録が残っています。どういうものかということ、金泥で塗装された木製の円盤なんですね。他の図像資料を見るともっとはっきりします。

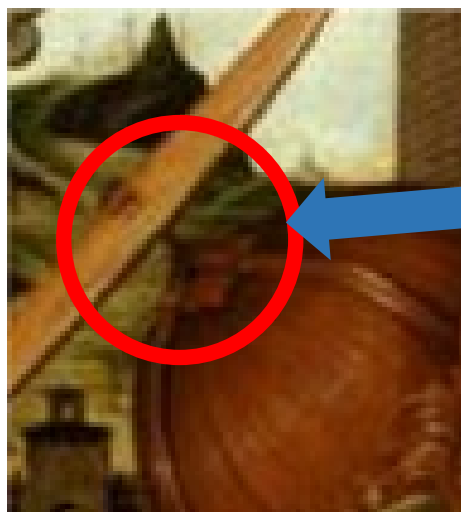
(下線・太字は発表者による)

地点・京都「マヤコフスキー研究会 第3回 対談 杉山博昭／鴻英良」  
[http://chiten.org/mayakovsky/kenkyu3rd-zenhan\\_p01](http://chiten.org/mayakovsky/kenkyu3rd-zenhan_p01)  
(2023年2月20日)

# ○絵画と舞台衣装



フランチェスコ・デル・コッサ  
《受胎告知》（部分）1467-69年  
アルテ・マイスタ・ピナコテーク/  
ドレスデン



これはもう笑ってしまう感じなのですが、はっきりと被り物として描かれています。大天使ガブリエルが被っているもの、支持する部分も含めタケコブターみたいな感じになっているのがわかると思います。

これも財産目録にのっているんですけども、お金があるときは孔雀の羽を準備していました。お金がないときはダチョウの羽を買ってそれを染めて使っていたということが当時の会計帳簿から分かります。これも他にも作例はありまして、ここに孔雀の羽がはっきりうつってしまっていると。

地点・京都「マヤコフスキー研究会 第3回 対談 杉山博昭／鴻英良」  
[http://chiten.org/mayakovsky/kenkyu3rd-zenhan\\_p01](http://chiten.org/mayakovsky/kenkyu3rd-zenhan_p01)  
(2023年2月20日)

# ○絵画と舞台衣装

演劇（聖史劇・典礼劇など宗教関係の劇）の場面を、画家が克明に描き写して絵画作品を制作したといえる。（反対に絵画から演劇の場面を作ることもあったらしい）

シャピローやパクサンダールが指摘したように、演劇から図像へという一方通行の即応関係を「実証的」に明らかにすることは困難である。しかし、図像の「源泉」や「典拠」への拘泥を留保し、再構成が進められてきた聖史劇についての研究成果をふまえるならば、演劇と図像のあいだに存在した「反復」や「再演」といった、双方向の照応関係を発見することが可能となる。

（杉山博昭 2010,PI,『反復/再演する図像：聖史劇研究の成果をふまえて』京都大学大学院紀要）

# ○聖ゲオルギウスと演劇衣装

イングランドの守護聖人、聖ジョージが馬で大広間に乗り入れ、後ろからは王女のように立派な身なりの若い女性、口から火を吹く巨大な赤竜が続いた。リビア王の娘を竜から救い出したという伝説の戦士は、絵画では決まって赤い十字を付けた甲冑姿で描かれており、この時も同じ装いであったと考えられる。

(下線・太字は発表者による) ※聖ジョージ=聖ゲオルギウス

→この演劇が行われたのは15世紀後半との記載あり

小林酉子 2010, 『チューダー朝初期の宮廷饗宴—その演出と衣装—』

J.Int.Assoc.Costume, No.38

# ○聖ゲオルギウスと演劇衣装

イングランドの守護聖人、聖ジョージが馬で大広間に乗り入れ、後ろからは王女のように立派な身なりの若い女性、口から火を吹く巨大な赤竜が続いた。リビア王の娘を竜から救い出したという伝説の戦士は、絵画では決まって赤い十字を付けた甲冑姿で描かれており、この時も同じ装いであったと考えられる。

演劇（+演劇衣装）によって聖ゲオルギウスのビジュアルイメージが確定していったのではないか？

# ○聖ゲオルギウスと演劇衣装

イングランドの守護聖人、聖ジョージが馬で大広間に乗り入れ、後ろからは王女のように立派な身なりの若い女性、口から火を吹く巨大な赤竜が続いた。リビア王の娘を竜から救い出したという伝説の戦士は、絵画では決まって赤い十字を付けた甲冑姿で描かれており、この時も同じ装いであったと考えられる。

演劇（+演劇衣装）によって聖ゲオルギウスのビジュアルイメージが確定していったのではないか？

⇒聖ゲオルギウスの絵画の変遷を追う



# ○聖ゲオルギウスとは

聖ゲオルギウスは、中世キリスト教世界においてもっとも崇敬を受けた殉教者の一人だが、その生涯については知られるところが非常に少ないと言われる。カッパドキアに生まれて軍務についていた人物で、キリスト教信仰のゆえに殉教したとされ、伝承では、ペルシャの王あるいはディオクレティアヌス帝が、彼を殉教に至らしめた迫害者に擬されている。この聖人に対する崇敬は、中世を通じて東方西方いずれにおいても浸透し、ギリシャ正教会では大殉教者の一人に数えられ、また西欧においては十四救難聖人の一人となり、王侯貴族から民衆層まで広く受け入れられるに至った。

聖ゲオルギウス伝に取り込まれた様々な伝説のうち、もっとも人口に膾炙した挿話は、おそらく、この聖人が悪竜を倒して生け贄の王女を装い、それまで竜に苦しめられていた人々をキリスト教に改宗させる、というものであろう。

# ○聖ゲオルギウスと十字軍

聖ゲオルギウスを竜を倒す戦士として描いた図像は、まず東方において現れ、12世紀頃、十字軍遠征の時代に西欧に移入されたと考えられている。聖ゲオルギウスは十字軍戦士たちの保護者とされ、数々の騎士団がその守護の下に創立された。

田中圭子 1998, 『マクシミリアン1世のプロパガンダと聖ゲオルギウス』  
大分県立芸術文化短期大学研究紀要 第36巻

# ○聖ゲオルギウスと十字軍

聖ゲオルギウスの伝説を十字軍遠征のプロパガンダに利用した。

1486年からはじまったマクシミリアン政権下において聖ゲオルギウスの画像がプロパガンダに利用されていたのではないかという論文がある。

→田中圭子 1998, 『マクシミリアン1世のプロパガンダと聖ゲオルギウス』

大分県立芸術文化短期大学研究紀要 第36巻

# ○十字軍とは

中世の西欧カトリック諸国が、東ローマ帝国の要請を受けて「異教徒であるイスラム教国からの聖地イスラエルの奪還」を目的に派遣した遠征軍。

- |       |     |                           |
|-------|-----|---------------------------|
| 1096年 | 第一回 | イスラエル奪還成功、四つの十字軍国家        |
| 1147年 | 第二回 | 小アジアなどで敗北                 |
| 1189年 | 第三回 | イスラム側サラディン活躍、神口帝溺死        |
| 1202年 | 第四回 | ヴェネツィアの意向によりコンスタンティノープル征服 |

第一回以外は失敗している。

# ○聖ゲオルギウスが描かれた絵画の変遷

	聖ゲオルギウスのビジュアル (十字前)	聖ゲオルギウスのビジュアル (十字無)		聖ゲオルギウスのビジュアル (十字前)	聖ゲオルギウスのビジュアル (十字無)
4世紀 5世紀 6世紀			6世紀	 レオナルドの『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)
10世紀 11世紀		 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	17世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)
12世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	18世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)
13世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	19世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)
14世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	20世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)
15世紀	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)		 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)	 『聖ゲオルギウスとドラゴン』 (1480年)

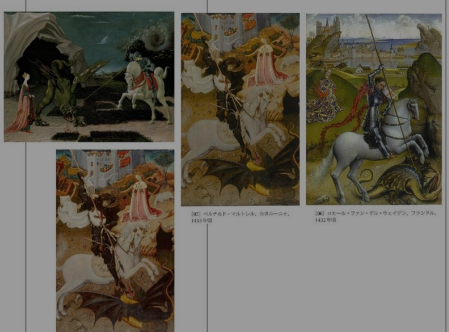
聖ゲオルギウスの描かれた絵画の年表

同じ作者の描いた作品、は  
民間に開かれ、身分や  
アイテムなど付いている。  
意いは騎士が十字の旗のよ  
うなものを有印につけてい  
るか、いないか。

# ○聖ゲオルギウスが描かれた絵画の変遷

	伝説	十字軍	宗教劇	ビジュアル
4.5世紀 5.6世紀 6世紀	電通する聖ゲオルギウス像のシフト キリスト色が出てきたのはこの辺り? ◎地中海東部			人面蛇のドイツ
10世紀	聖テオドロスが電通 聖ゲオルギウスが迫害者成敗		カトラック内で発生 ラテン語で書かれた神祕劇	
11世紀	ジョージア最古の電通 キリスト教の神が異教徒の偶像崇拜する不信心な支配者を懲らしめるために悪竜を退治した(王女あり)	遠征準備 民族十字軍 第一回十字軍 イスタム教徒に対する軍事行動 四つの十字軍国家		最古の民族聖像 聖テオドロス: 聖ゲオルギウス: 迫害者成敗 ◎ビザンティン, エジプト, シナイ ◎アルメニア ◎ジョージア 王女救出聖像◎イタリア 王女救出聖像◎フランス
12世紀	伝説と偶像がビザンティンで広まる 十字軍経由で西キリスト教圏に	小アジア, ノルウェーへ 一失敗 第二回十字軍 第三回十字軍 十字軍聖像消滅 イスタムの英雄カラディン 獅子心王(英)など参加 フリードリヒ一世(神聖ローマ)溺死 英仏がアッコン奪還 互が休戦協定 →エルサレム失敗	教会内外でも現地語で読まれるようになる フランス, イギリスで人気に	サラモン人攻撃◎フランス 王女救出聖像◎フランス
13世紀	『黄金伝説』(キリスト教聖人伝記) 異教神話が大量になった時代 それに対する十字軍の指揮をとったミモン・ド・モンフォールは新しいゲオルギウスと称えられた 異教神という悪竜, カトラックという王女 舞台がカッパドキアからラビアン	第四回十字軍 ローマ教皇 第五回十字軍 ハンガリー, オーストリア 第六回十字軍 神聖ローマ 第七回十字軍 フランス(ルイ九世) 第八回十字軍 フランス(ルイ九世) 第九回十字軍 イギリス, フランス	祝祭祭典が行われるように 『黄金伝説』(キリスト教聖人伝記) 『聖高』(神話)『交響』(聖歌) 聖像(サイクル)へ 新しい住民は深い宗教心がなく迷信に傾く 『異教的本能』 →マリア, 聖者, 聖遺物崇拜 が聖ゲオルギウス伝説に『聖高』(神話) 生活に『交』を授けてくれる, 危害や不幸から 守ってくれる めぐる	
14世紀				十字に導く 黄金伝説のミニアチュール◎パリ (王女, 十字軍)
15世紀				王女◎イタリア 王女, 十字軍◎フランドル 王女, 十字軍騎兵◎カタルーニャ 王女◎イタリア
16世紀				ヘンリー7世の宮廷聖像◎イギリス

伝説、十字軍、宗教劇、ビジュアル  
で見た年表

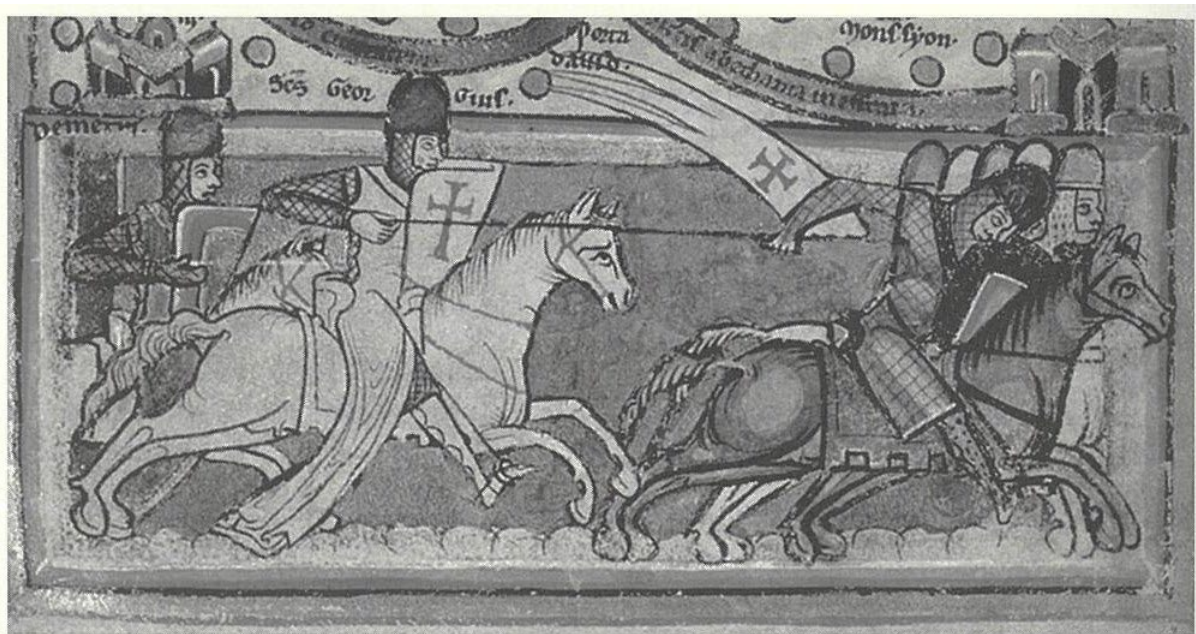


## 世界地図(ヨーロッパ)

聖ゲオルギウスに関連するヨーロッパ周辺各国の祭り

- 春のユーリイの日  
秋のユーリイの日  
◎ロシア
- セントジョージデー  
◎イングランド
- 聖名祝日  
◎ハンガリー
- 聖ホルへの日  
◎スペイン
- サン・ジョルディの日  
◎カタルーニャ
- 緑のユーリ  
◎スロベニア
- ジュルジュヴダン  
◎セルビア, ポスニア・ヘルツェゴビナ
- ギオルゴバ  
◎ジョージア
- アラコンの日  
◎アラゴン
- ゲルギョヴデン  
ブルガリア軍の日  
◎ブルガリア
- ゲオルギウスの日  
◎シリア
- 聖ゲオルギウスの日  
◎バレンシア アルコイ
- シェンジェリジ  
◎アルバニア, ソソボ
- 聖ゲオルギウスの祝祭  
◎パレステイナ
- Jerjesの日  
◎ヨルダン

# ○十字と演劇的な絵画



●— 165 サラセン人を追撃する聖ゲオルギウスの写本挿絵、  
フランス、12世紀末



# ○十字と演劇的な絵画



読売新聞オンライン「劇団四季のミュージカル「バケモノの子」…  
深いドラマに奇跡のシーン、よくぞ作った！」

<https://www.yomiuri.co.jp/column/spotlight/20220531-OYT8T50036/>  
(2022年6月2日)



縁とらんす「市民ら感動！「劇団四季」釜石で震災後初のホール公演 釜石出身俳優も熱演」

<https://en-trance.jp/news/kamaishishinbun-news/28078.html>  
(2021年10月5日)



# ○十字と演劇的な絵画



# ○十字と演劇的な絵画

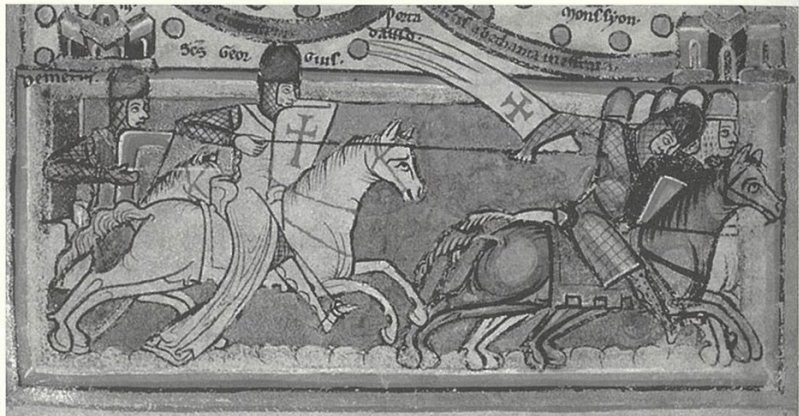


ウッチェロが1458年から1460年の間に制作した『聖ゲオルギウスと竜』。ジャックマール＝アンドレ美術館所蔵。



パオロ・ウッチェロが1470年頃に制作した『聖ゲオルギウスと竜』。こちらの騎士は十字のものを身に着けていない。(ナショナル・ギャラリー、ロンドン所蔵)

# ○現在の聖ゲオルギウスに関する祭り



●— 165 サラセン人を追撃する聖ゲオルギウスの写本挿絵、フランス、12世紀末

# ○現在の聖ゲオルギウスに関する祭り



ウッチェロが1458年から1460年の間に制作した『聖ゲオルギウスと竜』。ジャックマール＝アンドレ美術館所蔵。

# ○現在の聖ゲオルギウスに関する祭り



シェンジェルジ  
アルバニア、コソボ



ジュルジェヴダン  
セルビア、ボスニアヘルツェゴビナ



緑のユーリ  
スロベニア



サンジョルディの日  
@カタルーニャ



アラゴンの日  
@アラゴン



セントジョージデイ  
@イングランド

# ○聖ゲオルギウスに関する演劇が始められた時期

## 12世紀

宗教劇：カトリック教会外でもされるようになり、イギリス、フランスで人気に。

十字軍：第二回と第三回開催。

イスラム側のサラディンが活躍し、十字軍国家消滅。

フリードリヒ1世(神聖ローマ)溺死、フィリップ2世(フランス)帰国、

リチャード1世(イングランド)一人奮闘し、アッコン奪還。

エルサレム奪還失敗。

# ○参考文献

地点・京都「マヤコフスキー研究会 第3回 対談 杉山博昭／鴻英良」  
[http://chiten.org/mayakovsky/kenkyu3rd-zenhan\\_p01](http://chiten.org/mayakovsky/kenkyu3rd-zenhan_p01) (2023年2月20日)

杉山博昭 2010,PI,『反復/再演する図像：聖史劇研究の成果をふまえて』京都大学大学院紀要

小林酉子 2010,『チューダー朝初期の宮廷饗宴—その演出と衣装—』  
J.Int.Assoc.Costume,No.38

田中圭子 1998,『マクシミリアン一世のプロパガンダと聖ゲオルギウス』大分県立芸術文化短期大学研究紀要 第36巻

ご清聴ありがとうございました